

吉田は夏を忘れない

池田 真也

#野球場

高校野球地区予選の準決勝。ゼロが並ぶスコアボードに9回表だけ1の数字がある。ツーアウト。一塁と二塁にランナー。マウンドに集まっている城北高校ナイン。

長谷川（キャッチャー キャプテン）

「ドンマイ、ドンマイ。ツーアウトだから、このあとしっかり守ろう。」

背番号14の吉田（2年生）。うつむいている。

#回想

セカンドゴロをはじく吉田。ボールをすぐに拾おうとするが転がって行く。ホームに突っ込んでくるランナー。ようやくボールをつかみ懸命にバックホームするがセーフ。スコアボード9回表の1点。

#再びマウンド

吉田 「すみません。」

長沼（ファースト 2年生）

「ドンマイ。しょうがないよ。」

長谷川 「とにかく、もう一点もやらないようにしよう。」

それでもナインには落胆の表情。

金城(ピッチャー)

「バックネットうらに日傘さした女がいるだろ。長い髪の女。」

いきなり何を話したすのかびっくりするナイン。

金城 「あれ俺の新しい女なんだ。」

長谷川、すぐに金城の意図が分かって笑顔。

長谷川 「どれだよ。」

金城 「まえから3列目。」

徳永(サード 3年)

「赤い日傘か。」

金城 「そう。」

長谷川 「かわいいな。」

金城 「だろ。今度紹介してやるよ。」

長谷川 「よし。しまっていこう。一点ぐらい裏で逆転してやろうぜ。」

ナイン 「オー。」

ポジションに散って行くナイン。

マウンドには長谷川と金城が残る。

長谷川「すまない。ふんばってくれ。」

長谷川ポジションに戻る

ひとり、マウンドで大きく深呼吸する金城。セカンドを見る。吉田はグラブをさわっている。

金城「吉田。」

吉田「・・・」

金城「まだ終わってないぜ。(笑顔)」

第一球。直球ストライク。

ロージンに手をやる。振りかぶって第二球。直球ストライク。

金城 球場全体を見渡す。応援団。ベンチ。ナインのひとりひとりの

顔。天を仰ぐ。青空。

金城「・・・気持ちいいな。」

長谷川のサインに頷く。

高校時代最後の一球に全精力をこめてストレート。空振りの三振。

金城ガッツポーズ。

#9回裏。ツーアウト、ランナー二塁。

バッターは吉田。打った。大きな当たり。

総立ちのベンチ。金城も立ち上がる。伸びる打球。金城座る。諦めの表情。盛り上がるベンチ。しかしライトがバックしてキャッチ。

試合終了。ゆっくりと挨拶にむかう金城。

挨拶を終えベンチに戻ってくる。沈んだナイン。

泣いている三島（レフト）。

「畜生！」とベンチを蹴つ飛ばす背番号4の権藤。右手を包帯で吊っている。

ひとりひとりに謝る吉田。ナインは優しく気にするなどこえをかける。金城のところにもやってくる。

吉田 「金城さん。本当にすみません。」

金城 「なに、いつものことさ。」

金城を取り囲む報道陣。

記者A 「15三振もうばいながら。残念でしたね。」

金城 「仕方がないです。」

記者B 「素晴らしい速球をもちながら、結局3年間甲子園に出られなかったわけですが、やはり悔しいですか？」

金城 「そうですね。でも城北で野球ができて良かったと思っています。」

記者C 「卒業後の進路は考えていますか。」金城 「球団はどこでもいいからプロに行きたいと思っています。」

笑顔でインタビューに答える金城。

#球場の外

帰りぎわ

決勝進出を決め意気が揚がっている相手チーム。金城、彼らに目をとめ立ち止まる。つかえる後ろ。

金城 「ああ悪い。：（すぐに笑顔を取り戻す）夏はなにして遊ぼうかな。」

涼しい顔をしてバスに乗り込む。

#合宿所 吉田の部屋

明かりをつけない真っ暗な中で、吉田はベッドに寝転がり天井を見つめている。

ドアをノックする長沼。

長沼 「はいるぜ。」

吉田は無言。長沼入ってくる。明かりをつける。ベッドの横においてある椅子に座る。

長沼 「なあ：：おりてこいよ。：：もう誰も怒ってないって。あれは誰にも取れねえよ。：：俺たちには来年もあるんだしよ：：キャプテンとか心配してるぜ。：：みんな待ってるぜ。な、起きた起きた。」

吉田をむりやり起き上がらせて、長沼は吉田の背中をおして部屋を出

て行く。

#一階の食堂

後援会主催の残念会が行われている。テーブルの上には料理と飲み物が並べられている。みんな昼間の敗戦は忘れて意外に明るい。

長谷川が笑顔で彼を迎える。

長谷川「おう。吉田。どこにいたんだよ。腹減っただろ。うまいぜ。

食えよ。……あ、おい金城どこ行ったか知らねえか。」

長沼「さつき外出てくの見ましたけど。」

長谷川「じゃあ悪いけど呼んできてくんねえか。」

吉田「俺行って来ます。」

#外

金城を探す吉田。姿はない。

建物の陰から声がする。何があるんだろう。声のするほうに歩いていく吉田。驚く吉田。金城がひとりで泣いている。初めて見る金城の涙。彼を見つめる吉田。

#城北高校グラウンド

ノックの球を横っ跳びでとる吉田。ファーストに送球。

吉田 「オーラ。もう一丁。」

真っ黒に汚れたユニフォーム。誰よりも大きな声を出している吉田。
青空の下。吉田は今日も白球を追う。

終わり。